

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育力・組織力・企画力を構成要素とする「学校力」のさらなる向上を図ることにより、生徒一人ひとりの個性・能力を最大限に伸ばすとともに、自ら目標を定め、その実現に向けて全力で努力する生徒を育てる。

1. 学習指導・進路保障体制の一層の充実により、「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」をめざす
2. 主体的・自律的な努力を怠らず、自己の向上に努める生徒を育成する、「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」をめざす
3. 自己表現力、コミュニケーション能力を育て、国際社会で活躍する人材を育成する、「グローバルに考え、行動する学校」をめざす

2 中期的目標

【未来をひらこう颯爽と】 → 60年の歴史を刻む本校は、これまでのよき伝統を継承して、さらなる発展をめざし、生徒が未来に向けて「颯爽」と（校歌の一節「颯爽たり枚方」に因む）飛躍、世界規模で活躍していくことを願って、中期的目標の冒頭にこの言葉を掲げる。

1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現に向けて

(1) 生徒一人ひとりが自己実現を果たすための「確かな学力」を身に付けるよう、全教員が「授業改善」に取り組む。

- ・新学習指導要領における各教科の「新教科スタンダード」を作成するとともに「新枚高マップ」の令和6年度の完成、7年度以降の充実をめざす。
- ・各教科において、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし「観点別学習状況の評価」を進めるとともに、これまでの教育実践にICTを効果的に取り入れ、一斉学習、個別学習及び協働学習を組み合わせること等により、学びの深化を図る。
- ・国際文化科を設置する学校として全校的に「総合的な探究の時間」の充実を図り、課題発見・解決する資質・能力を育むための学びを構築していく。
- ・リーディングGIGAハイスクール指定校として、校内体制の整備を一層進め、1人1台端末を積極的に活用した授業実践のための教員研修や公開授業を実施する。これらの取組み等により、令和7年度以降、学校教育自己診断（以下「自己診断」という。）における「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率85%（R2 86% R3 85.1% R4 85%）とともに、授業アンケートにおける満足度3.25以上を維持する。（R2 3.25 R3 3.37 R4 3.36）

（※「満足度」：授業アンケート「問8 授業内容に興味・関心を持つことができた」「問9 知識・技能が身に付いた」の全教員の評価平均（4点満点））

(2) 夢と志を持つ生徒の育成を図るとともに進路保障体制をさらに充実させる。

- ・最後まで目標に向けてチャレンジする生徒を育てることにより、令和7年度には現役生の国公立大学合格者10人以上をめざす。（R2 6人 R3 4人 R4 4人）
- ・生徒支援体制を一層充実させ、自己診断における「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率を令和7年度85%以上に。（R2 84% R3 82% R4 82.3%）
- ・「総合的な探究の時間」においてSDGs課題研究・キャリア教育・人権教育・国際理解教育等を体系的に実施し、課題を発見し解決する力を育成するとともに、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の育成に努める。自己診断における「総合的な探究の時間（枚方未来学）は自分の成長に役立っている」（R2 81% R3 83% R4 80.1%）の肯定率を令和7年度に83%以上とする。

2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現に向けて

(1) 学校行事の充実、部活動の活性化を図る。

- ・学校行事での主体的な取組みを支援し、自己診断における「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率、令和7年度90%を維持する。（R2 92.4% R3 94.4% R4 88.0%）
- ・部活動加入率について、令和7年度に80%を達成するとともに、一層の増加をめざす。（R2 75% R3 71.9% R4 76.1%）

(2) 生活規律を確立させる取組みを充実させる。

- ・遅刻者数の年間1,000未満を維持し、さらなる減少に向けて、令和7年度に向けて指導を継続していく。（R2 940人 R3 861人 R4 594人）
- ・制服の着こなし等、身だしなみに関する指導、携帯電話やICT機器の使用に係る指導、自転車の乗車マナーを含めた交通安全指導の充実を図る。

3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現に向けて

令和4年度「学校経営推進費」事業による「枚高で未来をひらこう ～Global Learning Hall から世界に羽ばたけ枚高生～」の計画（視聴覚教室のリノベーションによるグローバル人材の育成の推進）を引き続き実施する。

(1) 将来グローバル社会で活躍できるよう英語の4技能（「聞く・話す・読む・書く」）を総合的に育成する授業づくりを推進し、教育活動の様々な場面において、「使える英語力」の伸長を図る。

- ・大学等の協力を得ながら、英語暗唱弁論大会を充実し、「外国語キャンプ」、「インターナショナルフェスティバル」「10校合同課題研究会」等に積極的に参加し、令和7年度には自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率95%以上（R2 92.2% R3 91.2% R4 89.3%）とする。
- ・英語検定、英語学力調査等の受検を推奨するとともに、準備講習等を計画的に実施し、令和7年度の国際文化科卒業時には英検2級合格80%以上、準2級合格100%とする。

(2) 国際文化科を設置する学校として、全校的に国際交流・異文化理解教育のさらなる活性化、SDGsに関する課題研究等の充実を図る。

- ・国際文化科において、3年間を通じたSDGs課題研究及び国際交流・異文化理解教育の取組みを充実させるとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーション力を育成し、世界規模で考え、自ら考え、調べ、行動、発信できる力を養う。さらに取組みとその成果を国際教養科、普通科とも共有し、令和7年度には自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率を95%以上（R2 94.6% R3 92.1% R4 90.2%）とする。
- ・ユネスコ・スクールとしての取組みについて、生徒会執行部や複数のクラブが主体的に関わっていける活動となるよう推進していく。

4 教員組織体制の強化と教育環境のさらなる整備

(1) 広報活動の強化。

- ・学校外諸機関との連携や渉外及び校内調整、また本校の魅力やアドミッションポリシー等の情報を積極的に発信するため、中学校訪問・学校説明会等のさらなる改善や情報提供を組織的に行う。

(2) 教育環境の整備と業務の効率化の促進を図る。

- ・ICT機器の活用を推進するとともに、オンライン等による授業や情報発信・情報収集を積極的に行う。
- ・効率的な学校運営に向けて、ペーパーレスの一層の推進、ICTの活用による各会議・研修の効率化をさらに進め、業務縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒アンケート】</p> <p>31項目中27項目で肯定率が増加、4項目で減少した。生徒全体の回答率は95%（昨年度89%）で、全般的に肯定率の平均は86.4%と高く昨年度より2.2%の増である。</p> <p>「人権について学ぶ機会がある(97.7%)」「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある(95.8%)」の2項目は95%以上、「基本的生活の確立に力を入れている(92.9%)」「進路情報を知らせてくれる(92.3%)」「授業では評価基準やポイントが示されている(91.5%)」など高い肯定率を維持し</p>	<p><第一回> 令和5年7月10日（月）13時30分～15時00分 会議室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業外学習の取組みについて、枚方市の小中学校では学習と家庭学習をリンクさせている。学校側の宿題を保護者に明確にした。授業のための宿題を提供している。 ・生徒会の活動について、生徒の意見を吸い上げるような機関であってほしい。 ・枚高マップについて、「自己確立」なのか「自己実現」なのか、「グラデュエーションポリシー」も含め、「生徒が自己評価をする」という部分が入ってくるのかもしれない。 ・「主体性」について、主体性の捉え方はいろいろある。その中で良い主体性を身につけてほしい。

府立枚方高等学校

ている項目も多く90%以上は計11項目、85%以上は計18項目であった。

肯定率が最も増加した項目は、「学校は1人1台端末を効果的に活用している」94.3% (5.0%増)で、「国際交流の取り組みが活発である」93.6% (3.4%増)、「授業では自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」92.8% (3.2%増)、「文化祭・体育祭・修学旅行は意義深いものになるよう工夫されている」92.0% (4.1%増)なども肯定率・増加率共に高い。

一方で、「枚方高校はボランティア活動が活発である」は68.4% (0.2%減)と最も肯定率が低く、「生活指導は納得できる」75.8% (4.3%増)など昨年度80%未満の項目が増加している中で唯一微減した項目である。

また、肯定率が高い項目や増加した項目は維持・向上を、低い項目や減少したものについては増加へと、要因分析と対策が課題である。

【保護者アンケート】

肯定率の平均は81.3%と8割を超えているものの、肯定率は昨年度よりも3.7%減少となった。

肯定率が90%以上であった項目は、「他の学校にない特色のある教育活動に取り組んでいる」90.2% (3.4%増)「保護者用連絡アプリ」はよく役立っている」91.3% (1.7%増)「保護者に出す文書・事務連絡等は適切である」91.0% (0.5%減)「子どもに関する個人情報が守られている」93.9% (4.9%減)「1人1台端末を効果的に活用している」90.8% (2.9%増)の5項目であった。

一方で「生徒会活動は活発であると子どもから聞いている」50.5% (7.7%減)、「ホームページはよく役立っている」57.4% (6.8%減)と共に50%台となっており肯定率が低く、「生徒会活動の活性化」及び「ホームページの充実」が課題である。特に学校ホームページについては、上記「保護者用連絡アプリ」はよく役立っている」91.3% (1.7%増)の肯定率の高さとの関係性も考慮に入れながら、学校ホームページが保護者にとって有効な情報ツールとなるよう工夫改善が必要であると考えられる。

また、今回は特に回答率が34%と低く、昨年度(51%)と比べて大幅な減少となった。減少の理由として、昨年度学習支援クラウドサービスと併せて行ったプリントでの連絡を取りやめ、今年度は学習支援クラウドサービスのみでの連絡となったことが考えられる。来年度以降の周知方法等を工夫する必要がある。

【教職員アンケート】

全般について、52項目のうち19項目で肯定率が上昇、33項目で減少となり、肯定率の平均が77.5%と昨年度より2.3%減少した。また、回答率が70%と昨年度(71%)と同様に低い。

肯定率が最も高かった項目は「コンピュータやICT機器が授業で活用されている」100% (2.4%増)であった。また、「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」95.3% (2.3%減)、「授業の指導法について、工夫・改善に努めている」95.3% (2.3%減)、「生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている」95.3% (4.9%増)と高い結果であった。

一方、肯定率が最も低かった項目は、「学校として、読書指導に取り組んでいる」44.2% (3.7%増)であり、昨年度からわずかに増加したものの依然として低く、読書活動の充実・改善が必要である。

また、「校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、話し合う機会がある」58.1% (15.37%増)と依然として低く、話し合いを望む声が上がっている。

◇アンケート全体を通して

生徒・保護者・教職員の学校教育自己診断結果を踏まえ、教職員から学習指導や生徒指導、組織運営等について意見や提案等を聴取し実態把握に努めるとともに、課題の改善等に向けて、今後必要に応じて意見交換の場を持つなどして学校運営をより良いものにしていきたい。

自分の意見を発信するのが苦手な子にとっては、コミュニケーションの一步が難しいのではないと思う。引っ込み思案な子が残されなかが心配になる。「主体性」が誤解されると「わがまま」になるということもある。発言力が強すぎる子が評価されないように、お願いしたい。

・生徒への支援について

生徒支援委員会とも関連があるかもしれないが、周りの顔色を伺う、失敗したくないと思う生徒が多いと思う。折れてしまった子たちの支援も大事になってくると思う。

<第二回> 令和5年11月27日(月) 授業見学13時15分～14時00分

協議会14時10分～15時00分 会議室

・端末活用はこれからどう展開していくのか。先生方もわかりやすい資料を工夫している。
・ネイティブ教員による英語の授業が印象的だった。教員の一方的な説明ではなく、コミュニケーションになっていて、生徒がいきいきしていた。

・生徒がとても落ち着いてまじめに授業を受けている印象だった。NETの教員による授業は生徒がいきいきしていて、これが広がってほしいと思う。枚方市は端末活用が進んでいる。機会があれば見学に来ていただきたい。

・新しい科目がたくさんあると感じた。(公共、探求など)生徒の興味を引く工夫がされていて、生徒もまじめに授業をうけていた。生徒の発信が共有できるので、枚方高校の生徒さんならいろんな活用ができるのではないかと。今後に期待したい。小学校にもぜひ見に来てください。

・子どもからは授業も楽しくやっていると聞いている。自宅で端末を活用した学習をしている姿を見ることがないので、保護者側は活用の様子が見えてこないのが現状。

・教師がどれだけ生徒の思考を促せるか、実践するのは難しいと感じる。英語科、国際文化科の授業は枚方高校の特色であり、オンラインでの国際交流やGLホールの改修等もなされたと聞いている。

・21世紀型資質能力の育成をテーマに取り組んでいる。授業に具体的にどう落とし込んでいくのか。生徒の自己選択、自己決定を授業内に入れている。課題解決に向けて行事でも参加したいものを選びさせるなど。自己選択、自己決定場面を増やしていきたい。

(第一回・第二回を通して) — 「携帯電話のマナー」「生成AI活用に対する指導」「英検指導と2級の合格の割合」「リーディングGIGAハイスクールとは」「進路指導と実績」「オーストラリア滞研修」に関する質問をいただいた。注目いただいていることと捉え充実につなげていきたい。 —

<第三回> 令和6年2月5日(月) 13時30分～15時00分 会議室

<学校教育自己診断結果について>

・保護者の回答率50%以上は欲しい。

・小学校では保護者向けのアンケートは紙も併用している。

・肯定率については、保護者が年々辛口になってきている、生徒の肯定率と乖離してきている。HPの活用、大いにできると思われる。ブログを毎日更新することで、見てくれる人が増えた。更新するたびに、通知が行くシステム(プッシュ型)に移行を検討している。学習支援クラウドサービスが普及するにつれ、見なくなっている人も増えている。

・学習についても頑張っている生徒が増えたという結果が読み取れる。

・部活動盛んだと感じる。全国大会にも出場し、生物飼育部の活動も目立っている。

・アンケートの周知については、オンラインと紙の併用の時期かもしれない。

・「学校に行くのが楽しい」の肯定率は高いが、Dを回答した生徒もいる。そのような生徒たちへの対応について、学校ではどのように話し合っているのか。

・保護者アンケートで評価の低かった項目「生徒会活動は活発であると聞いている」「子どもは～と言っている」の回答が低い。親子の会話の問題なのか、どう捉えたらいいのか。HPの更新頻度はどうなっているか?例えば、生徒会活動についての発信はあるのか。更新が少ないと見にいかなくなる。

・HP更新の日を決めてしまってもいいのかも。

・保護者の回答の有効性についてはどうなのか?

・PTAは盛んに活動しているはずだが、去年より下がるのか?と思った。人によっては「特に活動していない」と思う人もいるだろうし、仕方がない部分もあるかと思う。

・保護者については、「わからない」という人も多いのかと思う。

・「生徒が生き生きしている」等、学校に毎日通わない親からすると回答に困る質問項目もある。わからなくて、Dに回答してしまうこともあるかもしれない。紙の方が、「答えないといけない」という気持ちになり、回答率は上がるだろうと思う。日中仕事に更新されることが多く、さらに通知も来ないので、見過ごしてしまうことも多い。今回の回答率の低さは、回答したくないより、気づいていない方が多いのでは?

・学校の様子を見ていただける、授業参観の頻度はどれくらいか?それぞれの質問項目で何を聞こうとしているのかをはっきりさせる必要があるかもしれない。

・障がい者差別解消法が施工されるので、障がいのある生徒、LGBTQの生徒への配慮も含まれてくるかと思う。

・今学校が楽しくないと感じている生徒たちが、楽しくなるような取り組み(生徒の学習、生活支援の項目)について触れられているのがいいと思った。

・R8年度には国立大に10名合格という項目があるが、そのようなものが世間から求められているものなのか?

・中学生の進学希望調査では、枚方高校の人気の高いようだったが、中学生にも魅力が伝わっているのかなと思う。

・英検準2級合格率80%以上という目標があるが、今年度の結果はどうなっているか?できれば次回の協議会で結果を示してほしい。

・多様性をどれだけ達成していけるか。不登校の生徒が学校に通えるきっかけがあるといい。

府立枚方高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 「生徒を伸ばし、伸びゆく学校」の実現	(1) 全教員の授業力向上	ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を行い、授業アンケートの結果について、全教員が真摯に受け止め、更なる改善に向けて取り組む。 イ 教科内だけでなく教科を越えた教員相互授業の見学や他校等の先進的な実践を視察する機会を活用し、ICTの活用やグループ学習などの研究・研修の充実に努める	ア 授業アンケートにおける「満足度」の3.25以上の維持[3.36] イ ・相互授業見学期間を2回設け研鑽の機会とする。[2回] ・教科内だけでなく教科を越えて授業見学など実施することで、自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率を向上させる。[85%]	ア 授業アンケートにおける「満足度」は3.34と減少した。今後とも更なる改善に取り組む。(○) イ ・授業見学期間(6月・11月)、初任者研修、近畿英語国際科研究協議会で公開授業を実施し研鑽を図った。(○) ・「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率89%と上昇した。(○) 授業研究や研修の充実に努めるなど、授業力向上に向け引き続き改善に努める。
	(2) 夢と志を持った生徒の育成、進路保障体制のさらなる充実	ア 家庭学習を含めた学習指導のあり方について、教科・学年を越えて検討・実践を進め、生徒の更なる学力向上を図る。 イ 学習指導、進路指導の充実・改善に外部模試等を全員対象とし積極的に活用する。また、各担任の進学指導スキルの一層の向上を図るための研修等を計画的に実施する。 ウ 「生徒支援委員会」「人権教育推進委員会」「帰国・渡日生連絡会」学年会等での情報共有を密にし、個別の課題等を抱える生徒支援体制を充実させ、SCや関係外部機関との連携を進める。いじめ、ハラスメントに関するアンケートの実施および面談を充実させる。 エ キャリア教育・人権教育・国際理解教育の一層の充実に向け、教員自らが研鑽を積む機会として、外部講師等の活用など、これまでの実践を継承・発展させるとともに、「総合的な探究の時間」において、SDGs課題研究などを通して課題を見つけ探究し、解決し、発表・発信する能力を育成する。	ア 「学力生活実態調査」における生徒の平均家庭学習時間を平日60分以上、休日平均90分以上に[1・2年平均平日49分、休日72分] イ ・「学力生活実態調査」「B2ゾーン」以上の生徒割合2年生(2回め)50%をめざす。[47.0%]。 ・現役生国公立大5人以上かつ関関同立50人以上の合格をめざす[国公立4人、関関同立81人] ウ 自己診断「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」の肯定率の向上。[82.3%] 「いじめについて真剣に対応」の肯定率90%以上の維持。[90.9%] ・自己診断(保護者)「保護者の相談に適切に対応」の肯定率85%以上の維持[88.8%] エ 自己診断「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」[95.7%]、「人権について学ぶ機会がある」[96.8%]の肯定率90%以上の維持。	ア 「学力生活実態調査」の平均家庭学習時間は平日36分、休日平均58分と課題が残った。(△) イ ・「学力生活実態調査」「B2ゾーン」以上は58%と向上した。(○) 今後、課題配信の実情と取組状況等を分析し、より効果的な授業外学習時間の増加を図るとともに、引き続き学習の質と量の両面での向上を図る。 ・現役生国公立大5人、関関同立96人。(○) ウ 「悩みや相談に応じてくれる先生」の肯定率は83.3%、「いじめについて真剣に対応」の肯定率90.4%。(○) ・「保護者の相談に適切に対応」の肯定率84.6%。(△) 今後も生徒・保護者両者への相談対応の充実を図っていく。 エ 「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」95.8%、「人権について学ぶ機会がある」97.7%と肯定率は上昇し90%以上を維持できた。今後も引き続き各取組みを推進する。(○)
2 「活気がみなぎり、かつ規律ある学校」の実現	(1) 学校行事の充実、部活動の活性化	ア 学校活動の活性化を推進し、行事の魅力化を検討する機会を設け、工夫して実施することで、生徒の自尊感情の高揚を図る。 ・「ノークラブデー」を実施し、部活動の活性化と効率化及び学習との両立をめざす。 ・文化祭・体育祭等について生徒会や関係生徒が主体的に企画・運営できるよう支援する。	ア 自己診断「学校に行くのが楽しい」の肯定率の向上。[84.3%] ・自己診断「学習と部活動の両立を大切にすると雰囲気がある」の肯定率の向上。[77.5%] ・自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率の向上。[88.0%]	ア 「学校に行くのが楽しい」肯定率は88.5%と上昇した。(○) ・「学習と部活動の両立」の肯定率は80.7%と上昇した。(○) ・自己診断「文化祭・体育祭・修学旅行は、意義深いものになるよう工夫されている」の肯定率は92%と上昇した。(◎) 今後も学校行事を含む生徒の自治活動の活性化と、部活動と学習との両立の充実を図っていく。
	(2) 生活規律を確立させる取組み	ア 生活規律を重視する指導を明確化し、生徒・保護者の一層の理解を得るとともに、教員間の組織体制の充実し、規則を再確認する。 ・遅刻指導、服装指導、頭髪指導を継続する ・交通安全指導、薬物乱用防止教育を充実させる ・SNSの正しい理解、携帯電話の使い方指導	ア ・年間総遅刻者数1,000人未満維持[594人] ・自己診断「指導に納得・共感」の肯定率の向上。[生徒71.2%、保護者88.2%] ・交通安全及び薬物乱用防止について、それぞれ講演を実施し、指導の充実に努める。 ・自己診断「情報リテラシー」の肯定率80%。[78%]	ア ・年間総遅刻者数435人(約27%減)(◎) ・自己診断「指導に納得・共感」の肯定率は、生徒75.8%、保護者83.0%となり生徒と保護者の意識の乖離が見られる。今後も生徒・保護者両者に理解を得られるように努める。(△) ・自己診断「情報リテラシー」の肯定率は74%となった。ICT活用がますます進む中、引き続き啓発に努める。(△)

府立枚方高等学校

3 「グローバルに考え、行動する学校」の実現	(1)英語4技能の育成とコミュニケーション能力・プレゼンテーション力の伸長	<p>ア 英語4技能の育成を進めるため、指導の工夫を行うとともに、国際文化科1・2年生に対して英検等外部検定の受験を推奨する。</p> <p>イ 英語暗唱弁論大会の充実、改修された視聴覚教室でのポスターセッション等の実施を踏まえ「外国語キャンプ」、「インターナショナルフェスティバル」「10校合同課題研究発表会」等へ積極的な参加を促す。</p>	<p>ア 英語外部検定受験を推奨し、英検については国際文化科全員受験を実施する。卒業時の2級合格 60%以上、準2級合格 85%以上[29%、61%]。</p> <p>イ 自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率 90%以上。[89.3%]</p>	<p>ア 英検は国際文化科全員が受験した。59期生81名について、卒業時で準2級合格は78名(96%)、2級合格は26名(32%)、さらに準1級合格は2名となり努力の成果が表れた。(○)</p> <p>イ 自己診断「自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」の肯定率 89.392.8%と上昇した。今後も大学や関係機関との連携を更に生かし、探究学習と発表の両面での充実を図る。(◎)</p>
	(2)国際文化科設置校としての取組みの充実・国際交流活動の更なる充実	<p>ア オンラインを含む海外交流や海外研修の推進を図る。</p> <p>イ 異文化理解の推進に向けて、外部講師等を活用した講演やゲストティーチャーによる授業等を各学年で実施。</p> <p>ウ ボランティア活動やあいさつ運動ユネスコ・スクール等の取組みについて、生徒会と関係クラブ等が連携できるよう支援する。</p>	<p>ア・オンラインを含む国際交流や海外研修を合わせて年間5回以上実施する。[5回]</p> <p>イ 自己診断「国際交流活動が活発」の肯定率 90%以上の維持。[90.2%]</p> <p>ウ 自己診断「他の学校や地域の人と交流する機会がある」の肯定率の向上。[73.0%]</p>	<p>ア 交流は年間7回実施した。(○)</p> <p>イ 「国際交流活動が活発」の肯定率 93.6%と上昇した。次年度も海外研修やオンライン交流、留学生受入れなど、オーストラリアの高校や近隣大学、関係機関との連携を生かして異文化理解や国際交流の充実を図る。(◎)</p> <p>ウ 「他の学校や地域の人と交流する機会がある」の肯定率は76%と上昇した。近隣の学校や保育所との交流活動、生徒会と部活動による地域清掃、正門周辺の整備などの活動ができ好評を得た。今後も継続させたい。(○)</p>
4 教員組織体制強化と環境整備	(1)広報活動の一層の充実	<p>ア 広報機能の更なる充実を図り、学校説明会の活性化や中学校等が主催する進学説明会へ積極的に参加する。</p> <p>イ 学習支援クラウドサービスの活用等により、保護者への情報発信を充実させる。</p>	<p>ア 学校説明会の参加者数 1,000人以上の維持。[1200人]</p> <p>イ 自己診断保護者「枚高の学習支援クラウドサービスによる連絡は役立っている」の肯定率 90%以上。[89.6%]</p>	<p>ア 学校説明会の参加者数は1570人(生882・保688)となり目標を大きく上回った。枚方地区高校説明会の本校での実施に加え、各中学校への説明会等にも積極的に参加できた。(◎)</p> <p>イ 自己診断保護者「クラウドサービスによる連絡は役立っている」の肯定率は91.3%となり活用の促進が見られた。(○)</p>
	(2)教育環境のさらなる充実	<p>ア ICT機器の授業での活用を組織的に進めるため、環境の改善や充実に努める。</p> <p>イ 会議でのプロジェクター活用、校内イントラネット、教員のタブレット端末の活用等により、会議資料ペーパーレス化・効率化を一層推進。各種会議、委員会において、各教員が共通の情報の元、意見交換を行うとともに全般の効率化により時間短縮を図る。</p>	<p>ア ICT環境の改善に努め、組織的に活用し、さらなる授業改善をめざす。教員の活用率の95%以上維持(自己診断「教員のICT活用」[97.5%])</p> <p>イ・職員朝礼時等に府通知等をデータで送付し、服務規律を含めた情報共有の効率化を一層進めるとともに、職員会議や各種会議でのペーパーレス化を一層進める。</p>	<p>ア 教員の活用率は100%と活用は定着している。更なる工夫に努める(◎)</p> <p>イ・府通知等をデータで送付したりクラウド上で日常的に活用したり情報共有の効率化が進んでいる。また、職員会議等でのペーパーレス化が進む中、余裕ができた時間に意見交換や研修を行うなど、集合型会議の有効利用の工夫についても検討したい。(○)</p>